

分野	科目名	単位(時間)	講師所属	
専門分野	看護学概論	2(60)	専任教員	
	開講時期	講義回数		
	1学年前期	30回		
実務経験		■ 有 □ 無		
目 標	<p>「看護とは何か」を考えるために看護の主要概念を中心に学び、看護の位置づけの役割の重要性について理解する。</p> <p>看護独自の機能と役割が理解できる。また、看護と社会的背景の関連を理解し、これらの看護を考える。看護の理念を通して看護の本質を学び、自己の看護観を発展させる。</p> <p>看護倫理の基礎的知識を学び、倫理的葛藤場面における判断能力を養う。</p> <p>基礎看護技術を統合して行う援助技術について学び展開できる。</p> <p>看護研究の基礎を学び、看護実践における研究の意義・方法を理解する。</p> <p>国際看護の基本理念を理解し、国際協力の実際を学ぶ。</p>			
授業内容	回	項 目	内 容	
	1 2 3 4 5	看護の概念	1. 看護の主要概念とは ・人間とは ・健康とは ・環境とは REActionについてグループワーク 今私達に出来ることは何か	
	6 7 8 9	看護の概念 看護の変遷	・看護とは 1. 原始古代と家族による看護 2. 宗教による看護 3. 職業的看護のめばえ 4. 職業としての看護 5. 看護の専門化 6. これからの看護	
	10 11 12 13	看護論	1. フローレンス・ナイチンゲール 環境論 2. ヴァージニア・ヘンダーソン ニード論 3. ドロセア・E・オレム セルフケア理論 4. ゴードン・M 11の機能的健康パターン	
	14 15 16 17	看護の倫理	1. 看護倫理とは ・看護倫理の必要性 ・看護専門職と看護倫理 2. 看護における倫理的ジレンマ ・インフォームドコンセント・情報開示 ・研究に関する倫理 3. 価値の特性 4. 倫理の原則 5. 患者の権利 6. 責務 7. 協力 8. 倫理的意決定能力	
	18 19	看護の機能と役割	1. 看護活動 ・直接看護活動 ・保険医療福祉チームの活動の仲介と調整	
	20	看護職員と保健医療福祉サービス	1. 看護職員 2. 保健医療チームと看護チーム	
	21 22 23 24 25 26 27	看護展開の技術	1. 看護展開の方法とは 2. 看護に必要な情報とは 3. 解釈分析・看護診断 4. 看護計画の立案とは 5. 実施評価とは 6. ペーパーパেশェントによる事例展開 ・脳梗塞 ・肺がん ・大腿骨頸部骨折	
	28 29 30	看護研究	1. 研究とは 2. 看護研究とは 3. 看護研究の意義	
	教科書 参考書	系統看護学講座 看護学概論 まとめてわかる看護学概論 看護の基本となるもの 看護理論	医学書院 看護研究Step by Step 医学書院 メディカ出版 日本看護協会出版会 南江堂	
	評価方法	筆記試験により評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	生活援助論 I	2(45)	専任教員
	開講時期	講義回数	
	1年生前後期	22回	
実務経験		■ 有 □ 無	
目 標	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得できる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。 対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を学び、高い臨床能力を養う。		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	看護技術論	1. 看護技術論とは 2. 看護実践の場とは
	2	観察・記録・報告	1. 観察の意義、内容、方法 2. 記録の重要性
	3		3. 記録上の注意 4. 報告の重要性
	4		5. 報告の方法
	5	安全の技術	1. 安全確保の基礎知識 2. リスクマネジメント
	6		3. 誤薬防止 4. 患者誤認防止
	7		5. 転倒・転落防止 6. 手洗い
	8		7. 演習
	9		
	10		
	11	安楽の技術	1. 援助の基礎知識 2. ボディメカニクス
	12		3. 体位保持(ポジショニング)
13	・仰臥位 ・側臥位 ・半側臥位		
14	・ファウラー位 ・腹臥位		
15	4. 体位変換		
16	・仰臥位から側臥位 ・側臥位から端坐位		
17	5. 褥瘡 6. 演習		
18	感染予防技術	1. スタンダードプリコーション 2. 感染経路別予防策	
19		3. 洗浄・消毒・滅菌 4. 無菌操作	
20			
21	感染予防技術(演習)	1. スタンダードプリコーション(手洗いの技術演習)	
22		2. ガウンテクニック(技術演習)	
23	テスト		
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術 I	医学書院	
参考書	系統看護学講座 基礎看護技術 II	医学書院	
評価方法	筆記試験(80点)、技術試験(20点)、で評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	生活援助論Ⅱ	1(30)	専任教員
	開講時期	講義回数	
	1年生前期	15回	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目 標	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得できる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。 科学的根拠に基づいて、日常生活援助ができる基礎的看護技術を習得する。 1. 環境 2. 移動・移送		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	環境調整技術	1. 環境とは ・健康的な環境とは ・療養環境とは 2. 環境調整の援助 ・ベッド周囲の環境整備 ・ベッドメイキング ・臥床している患者のシーツ交換 3. 病床整備・ベッドメイキングの実践(技術チェック)
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
7			
8			
9	移動・移送の技術	1. 移動・移送 ・移動とは・移動の実際 ・移動・移送とは 2. 体位変換・ベッドから車いすへの移動の実践(技術チェック)	
10			
11			
12			
13			
14			
15	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
評価方法	筆記試験(50点)、技術試験(50点)で評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	生活援助論Ⅲ	1(30)	専任教員
	開講時期	講義回数	
	1年生前期	15回	
実務経験		<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
目 標	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得できる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。 科学的根拠に基づいて、日常生活援助ができる基礎的看護技術を習得する。 1. 清潔		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	清潔援助の基礎知識	1. 身体の清潔に保つことの意義
	2		2. 清潔の全身への効果と心理的・社会的効果 3. 人体の構造と機能:皮膚・粘膜の機能と生理 4. .清潔援助の効果とは
	3	清潔援助の実際 (清拭・寝衣交換)	1. 入浴・シャワー浴の方法と身体への影響
	4		2. 衣生活の援助の必要性
	5		3. 全身清拭の目的とその根拠
	6		4. 全身清拭・寝衣交換のデモンストレーション
	7	清潔援助の実際 (手浴・足浴)	5. 全身清拭・寝衣交換の実施・練習
	8		1. 手浴・足浴の目的とその根拠
	9		2. 手浴・足浴の方法と身体への影響
	10	清潔援助の実際 (整容・口腔ケア・洗髪)	3. 手浴・足浴のデモンストレーション
	11		4. 手浴・足浴の実施・練習
	12		1. 整容・洗髪の方法と身体への影響
	13	清潔援助の実際 (陰部洗浄)	2. 整容・洗髪の実施・練習
	14		1. 陰部洗浄の目的とその根拠
15	2. 陰部洗浄の援助の実際		
	テスト	3. 陰部洗浄のデモンストレーション(デモ人形使用)	
		4. 陰部洗浄の実施・練習	
教科書 参考書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ		医学書院
評価方法	筆記試験(60点)、技術試験(40点)で評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	生活援助論IV	1(30)	専任教員
	開講時期	講義回数	
	1年生後期	15回	
実務経験		<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
目 標	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得できる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。 科学的根拠に基づいて、日常生活援助ができる基礎的看護技術を習得する。 1. 活動・休息 2. 食事 3. 排泄		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	活動・休息援助技術	1. 安楽な睡眠と活動の意義 1) 睡眠の種類とメカニズム 2) 活動の種類と休息 3) 睡眠障害の要因とアセスメント
	2		2. 安静による二次的障害 1) 廃用症候群とは 2) 局所的な症状 3) 全身への影響 4) 廃用症候群の予防
	3		3. 睡眠を促す援助 1) 体内時計のリズム 2) リラクゼーションについて 3) 寝具や環境調整
	4	食事援助技術	1. 食事援助の基礎知識
	5		1) 食事の意義 2) 摂食・嚥下のメカニズム
	6		2. 食事介助
	7		1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際
8	3. 演習		
9			
10	排泄援助技術	1. 排泄の意義	
11		2. 排泄のメカニズム	
12		3. 排泄のアセスメント	
13		4. 自然排尿および自然排便の介助の実際	
14		1) トイレにおける排泄介助 2) 床上排泄援助	
15	5. 演習		
	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ		医学書院
評価方法	筆記試験で評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	生活援助論V	2(45)	専任教員
	開講時期	講義回数	
	1年前後期	22回	
実務経験		<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
目 標	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得できる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。 科学的根拠に基づいて、日常生活援助ができる基礎的看護技術を習得する。 1. バイタルサイン測定 2. フィジカルアセスメント		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	フィジカルアセスメントとは	1.ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントとは 2.フィジカルイグザミネーション (視診・触診・聴診・打診・全体の概観)
		バイタルサインとは	3. バイタルサインとは 4. バイタルサインを観察する意義
	2	バイタルサイン測定	1. 体温・脈拍・呼吸・血圧に関する基礎知識、意識枝レベル
	3		2. 体温測定、脈拍測定、呼吸観察、血圧測定の実際
	4	バイタルサイン測定の実際	1. バイタルサイン測定の実際・デモンストレーション 2. 演習
	5		
	6		
	7		
	8		
	9	身体計測	1.身体計測(身長・体重・胸囲・腹囲)
	10	フィジカルアセスメント	1.呼吸器系の基礎知識
	11	呼吸器	2.呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際
	12	循環器	1.循環器系の基礎知識
	13		2.循環器系のフィジカルアセスメントの実際
	14	腹部	1.腹部の基礎知識
	15		2.腹部のフィジカルアセスメントの実際
	16	乳房・腋窩	1.乳房・腋窩の基礎知識 2.乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの実際
	17	筋骨格系・神経系	1.筋骨格・神経系の基礎知識 2.筋骨格・神経系のフィジカルアセスメントの実際
	18	頭頸部・感覚器	1.頭頸部・感覚器の基礎知識 2.頭頸部・感覚器のフィジカルアセスメントの実際
	19	実技試験	1. バイタルサイン測定 2. フィジカルアセスメント(腹部・胸部)
	20		
	21		
22			
23			
23	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院		
評価方法	筆記試験(70点)、技術試験(30点)で評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属	
専門分野	生活援助論VI	1(30)	専任教員	
	開講時期	講義回数		
	1年生後期	15回		
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
目 標	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、日常生活援助における特殊技術の基本を習得できる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。 科学的根拠に基づいて、日常生活援助における特殊技術を習得する。			
授業内容	回	項 目	内 容	
	1 2 3	清潔援助の特殊技術	1. 点滴・ドレーン等の留置している患者の寝衣交換 2. 演習	
	4 5 6	食事援助の特殊技術	1. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法 2. 演習	
	7 8 9 10 11	排泄援助の特殊技術	1. 膀胱留置カテーテルの管理 2. 導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入 3. 浣腸 4. 摘便 演習	
	12 13 14 15	安全に関する症状を示す対象 への看護	1. 痛みのメカニズム、アセスメント、援助 2. 吐気・嘔吐のメカニズム、アセスメント、援助	
		テスト		
	教科書 参考書	系統看護学講座 基礎看護技術II 医学書院		
	評価方法	筆記試験で評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属	
専門分野	治療援助論	2(45)	専任教員	
	開講時期	講義回数		
	2年生前期	22回		
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
目 標	看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得できる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。 科学的根拠に基づいて、治療・処置に関する基礎的看護技術を習得する。			
授業内容	回	項 目	内 容	
	1	呼吸・循環を整える技術(酸素療法)	1.援助の基礎知識と実際 ・中央配管・酸素ボンベによる方法 2. 排痰ケアの基礎知識 ・咳嗽介助、ハフィング、吸引(口腔・鼻腔・気管内)	
	2	呼吸・循環を整える技術(口・鼻腔・気管)	1.援助の基礎知識と実際 ・演習	
	3 4 5	創傷管理技術	1.創傷管理の基礎知識 2. 創傷処置・褥瘡予防・ドレーン類の挿入部処置 3. 包帯法 (演習を含む)	
	6 7 8 9 10	与薬の技術	1. 与薬の基礎知識 2. 経口、吸入、点眼、点鼻、経皮、直腸与薬基礎知識 3. 注射法 ・注射の基礎知識 ・注射法の実際(皮下・皮内・筋肉・静脈) ・点滴静脈内注射について ・輸血管理基礎知識 ・放射線の被ばく予防、薬剤のばく露予防	
	11 12 13 14	与薬の演習	1. 経口・吸入・点眼・点鼻・経皮・直腸与薬 2. 皮内・皮下・筋肉・静脈の注射法 3. 点滴管理の方法の演習をおこなう	
	15 16	救急救命処置技術	1. 救命救急処置の基礎知識 2. 心肺蘇生法・止血法の基礎知識	
	17 18	救急救命処置技術	1. 心肺蘇生法・止血法の演習	
	19 20	症状・生体機能管理技術	1. 検体の取り扱いの基礎知識(尿・血液など) 2. 簡易血糖測定、静脈採血、検査介助	
	21 22	医療機器の実際	1. 医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等)の操作・管理	
	23	テスト		
	教科書 参考書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
	評価方法	筆記試験で評価を行う。		